令和５年度実施大阪府民の「健康と生活に関する調査」報告書【概要版】

■ 調査実施主体　　大阪府こころの健康総合センター

■ 調査の概要

◯調査目的

令和５年３月に策定された「第２期大阪府ギャンブル等依存症対策推進計画」に基づいて、府民のこころやからだの健康、生活習慣、ギャンブル等の参加状況等をお聞きし、ギャンブル等をはじめとした依存症対策を考えるための基礎資料とすることを目的として実施した。

◯調査方法

住民基本台帳から無作為に18歳以上の対象者18,000名を抽出し郵送にて自記式アンケート調査票を送付。

◯調査期間 令和5年10月1日から10月31日

○回答方法　 郵送かインターネットのいずれかを選択。

◯回答者数

6,639名（回収率36.9％）、有効票は6,616票（回収率36.8％）

【内訳】（回答方法別）郵送回答4,913票、 WEB回答1,703票、（性別）男性2,861人（44.0%）、

女性3,647人（56.0％）、平均年齢は男性56.4歳、女性54.2歳

◯調査内容

1. 基本属性・背景情報、 ②ギャンブル等行動、 ③ギャンブル等関連問題、④ギャンブル障害の

スクリーニングテスト、⑤クロスアディクション、⑥その他

（※1　本調査における「ギャンブル等」とは、結果が偶然性に左右されるゲームや競技に対して、金銭を賭ける行為のことを言います。また、競馬、競輪、競艇などの公営ギャンブル、パチンコ・パチスロのほか、宝くじやスポーツ振興くじ、証券の信用取引（FX）を含みます。）

調査の結果概要

１．「ギャンブル等依存が疑われる者」の推計値

◯SOGS（※２　SOGS （The South Oaks Gambling Screen）は、アメリカのサウスオークス財団が開発し

た病的ギャンブラーを検出するための自記式スクリーニングテスト。ギャンブル障害に関する国内外の

疫学調査で数多く採用されている。得点範囲は0点から20点で、本調査は合計5点以上の者を「ギャ

ンブル等依存が疑われる者」とした。）を用いて、過去1年間以内のギャンブル等の経験等について評

価を行った結果（※３ 過去1年間でギャンブル等の経験がある者のうち、SOGSの質問項目に全て回

答した者を対象とした。）、「ギャンブル等依存が疑われる者（SOGS5点以上）」の割合の推計値は18歳

以上の2.0％（1.7から2.3％）（※４　数値は年齢調整後の値。（ ）内は95％信頼区間：同一の標本調査

を100回行った場合、そのうち95回で推計値がこの範囲内となる区間を表す。）、「ギャンブル等依存の

リスクがある者（SOGS3点から4点）」の割合の推計値は、1.9％（1.6から2.2％）となった。

◯18歳以上75歳未満でみると、「ギャンブル等依存が疑われる者（SOGS５点以上）」の割合の推計

値は2.2％（1.8から2.6％）、「ギャンブル等依存のリスクがある者（SOGS３点から４点）」の割合の推計

値は、2.0％（1.6から2.4％）となった。

1. ギャンブル等行動

（１）大阪府民のギャンブル等行動

●生涯のギャンブル等経験率は全体で75.1％、男性で87.1%、女性で65.8%であり、過去1年間のギャンブル等経験率は全体で34.2％、男性で47.8％、女性で23.6％であった。

●過去1年間にギャンブル等に使った金額（1か月当たり）の中央値は、全体で10,000円（平均203,698円）、ギャンブル等依存が疑われる者(SOGS5点以上) では50,000円（平均640,821円）であった。

●過去1年間に最もお金を使ったギャンブルは、全体で最も多いのが「宝くじ（ロト・ナンバーズ等含む）」で47.5％、次いで「パチンコ」が16.2％であった。ギャンブル等依存が疑われる者(SOGS5点以上)で最も多いのは「パチンコ」で42.9％、次いで「パチスロ」20.0％、「競馬」19.0％であった。

（２）開始した、習慣化した年代と購入方法

●初めてギャンブル等を開始した年代・習慣的にギャンブル等をするようになった年代は、いずれも20歳代・10歳代の順で割合が高い。

●過去1年間にギャンブル等を経験した者の主な券の購入方法について、主にインターネット（オンライン）で購入するのは、「競馬」70.7％、「競輪」64.9％、「スポーツ振興くじ（toto、BIG、WINNERなど）」58.4％であった。

３．ギャンブル等関連問題

○ギャンブル等依存が疑われる者（SOGS5点以上）の群では、飲酒問題のある割合が有意に高かった。

○ギャンブル等依存が疑われる者（SOGS 5点以上）の群では、重度のうつ・不安障害が疑われる者の

割合が高かった。

○ギャンブル等依存が疑われる者（SOGS5点以上）の群では、希死念慮を有する割合が有意に高かっ

た。

４．家族や重要な他者のギャンブル等問題

○家族や重要な他者にギャンブル等問題があったと回答したのは18.2％であった。

〇家族や重要な他者のギャンブル等問題から受けた影響として、「浪費、借金による経済的困難が生じた」が最多であった。

５．依存症に対する認識等

（１）ギャンブル等依存症対策の認知度

●ギャンブル等依存症対策の認知度は「金融機関からの貸付制限」が11.1% 、「パチンコ・パチスロ店の入店制限」は9.3%、「競馬・競輪・競艇・オートレースの入場制限」は7.2%であった。

（２）ギャンブル等依存症に対する認識

●ギャンブル等依存症に対する認識は「ギャンブル等依存症は病気である」80.3％、「ギャンブル等依存症のことで相談できる窓口がある」51.9％、「ギャンブル等依存症は回復できる」50.1％、「ギャンブル等依存症になるのは意志の問題ではない」40.3％であった。

●「ギャンブル等依存症は病気である」の認識を年代別にみると、30歳代が88.4％で最も高く、年代が上がるにつれて、認知度が低くなっている。

本調査のためにご協力をいただきました全ての方々に深くお礼を申し上げるとともに、 今後の調査にもご協力をいただきますようよろしくお願いします。

おおさか依存症ポータルサイト

http://www.oatis.jp/

発行　令和６年３月　大阪府こころの健康総合センター　相談支援・依存症対策課

〒558-0056　大阪府大阪市住吉区万代東3丁目1-46

本調査は、令和５年度依存症対策強化事業（大阪府・大阪市共同事業）において実施しました。